

現代版「表現・材料・道具」考

刑部育子  
桐山瞭子  
堀井武彦  
灰谷知子

「材料」か「素材」か

刑部 幼稚園教育要領では、表現という言葉と、素材という言葉が結構使われているのですが、「素材」になったのって、いつぐらいからなのかしら？ 昔から？

堀井 小学校の学習指導要領では、基本的に「材料」という言葉が使われています。子どもたちが活動の中で使うものは、基本的には材料。素材っていうと、例えば人の人生だっ

つと広い範囲のものを示すのでは。

桐山 中学校の学習指導要領も同じ表記です。

刑部 素材という言葉はあまり使われていませんか？

灰谷 幼稚園でも材料と言うことが多いですね。私たちの園には、「材料室」と呼ばれている部屋があるんです。

材料が先か、目的が先か

刑部 約五十年前の座談会（この後の14～17ページに一部転載）を読んでもどうですか？

堀井 一九六五年というと、私は六歳ぐらい。自分が幼稚園に通った頃に、こういう材料についてのいろんな考え方がこんなに丁寧に話されていたんだな、と感慨深かったです。私は教員になって三十二年目ですけど、学習の中での教材や材料について意識し始めてから、時代を通じた認識の変容を振り返ると、基本的には変わってないっていう感じがしますね。

**刑部** 基本的な考えとは、例えばどんなことですか？

**堀井** 幼児にとつてふ

さわしい紙や刃物につ

いて考えたり、座談会の中では、すぐセロハンテープを使う子どもの傾向に困惑したり、……今でも現場ではよく耳にする話題です。

**桐山** 色付きの段ボールの話が出てきますが、現在はモノを作ってから塗ることが多いように思う。目標ありきでコトが進んでいくのと、そこにある材料をきつかけに何かを作るというのは、それってどつちも素敵なんだけど。今私たちが考え悩むことと似ているのかなと感じました。

**刑部** 附属幼稚園の材料室で、子どもが「こういうものが作りたいから画用紙が欲しい」とか「赤色がいい」とか先生に話しているのを目にしたことがあります。逆に、この材料



▲刑部育子氏

があるから何か新しいものを作ってみようかなという場合もあると思うのですが。その辺の環境設定には、どんなことに心を砕いているのですか？

**灰谷** いつもすごく迷うところです。作りたイメージができてからその材料を選ぶ経験も大事にしたいと思っています。

### 材料そのものの力

**刑部** 堀井先生と桐山先生は図工、美術教育がご専門ですが、今の話はどうですか？

**桐山** 私は以前小学校の図工専科で勤務していたので、小学校と中学校の違いをととても感じます。中学生は材料に興奮するということが結構ある。中学三年生で五円玉の素材に当たっている真ちゆうを扱うんですけど、金属を加工するなんて経験は今までまずないから、それがうれしいみたいです。「キーホルダー作り」という目的も明確です。誰にあげようかと考

えることでデザインが決まり、それで材料が加工できる。材料と目的の両方に感化されないとちよつと中学生はなかなか難しいものもあるのかなつて。小学校のときは、材料があつてそれがただうれしくて。目的以上に、それ自身を小学生は楽しんでくれるなというイメージがあります。

### 子どもが持つイメージと材料

**刑部** 先ほど灰谷先生が、先にあるイメージに対して材料がこうかなと一緒に考える、という話がありました。イメージが難しいんじゃないかと思つて。それはどんな子にも出てきて、使いたいものが決まつていくものなのですか？

**灰谷** ある時、年少の子どもが、年長さんが牛乳パックで作った電車を見て、「僕も作りたい」と言つたんです。でも、牛乳パックが欲しいとか箱が欲しいとは言わなかつたんです。

私はすごく迷いながら、「どんな感じなの？」というやりとりをその子としました。結局、その場にあつたのは画用紙で、「ここ、窓にしたい」というイメージに合わせて紙から立体を起こしていきました。その子が初めに作りたかつたのは牛乳パックの電車だろうなと私はわかつていたので、牛乳パックを取りに行くことはできたと思います。でも私はそうしなかつたし、その子自身も出来上がったものを見たとき、「僕のはしなかつたことが実現した」と喜んだように思います。後からよく考えると、箱で作つたほうがよっぽどやりやすいし、その子のイメージにはなかつたかもしれないのだけれど、あの時に紙から起こしたやりとりつて何だつたのかなと、今でも時々思い出します。

**桐山** 子どもは、材料うんぬんじゃなくて、こうしたという気持ちこそこれも



▲桐山瞭子氏

かなえられるんだと感じたのかなど。かなったことに対して本人は満足しただろうか。本

当に牛乳パックを求めていたら、「先生、そういうんじゃないかって」って言ったかもしれない。

**堀井** 自分が作ってみたいというイメージを尊重するのは、発達年齢と関係なく同じだし、そうありたいなと思っているけれど、そこが小学校ぐらいになると、技術的に越えられないと思いが途中でしぼんでしまうかもしれないと心配してしまう。

**灰谷** 材料をこちらが提示するタイミングが大事なんだなと思います。例えば、カバンを自分で作って、さあ遊びに行こうというときに、持ち手部分の紙が破れたりする。「切れないのもあるのよ」とリボンを提示すると、自分作りたいたいと思いがびったり合致する。

**堀井** そのタイミングがうまくいっていると、その子には確かな経験知になる。教師側がやらせようと思うと、子どもの身体の中にす

んと落ちないかもしれない。

**桐山** タイミングは本場に大事。授業で、最初の説明のタイミングが生徒に合うと、入り方やかかわり方が変わってくる。どうすればいいの？ と質問まで出てくる。でも、同じことを言ってもタイミングが違うと、聞いてすらいらない。中学生は週一時間の授業でやっているのです、どのタイミングで説明するかがすごく大切。でも、どの年齢にも共通することなんじゃないかと感じます。作れただけで満足なときと、使いたいという欲求が強いと、きとあつた。

**堀井** それって表現の活動を支える上での要素としては、共通だと思う。

### はやめこころ

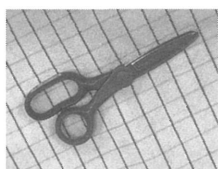
**刑部** 昔の座談会で気になったところなど。

**堀井** 用具のこと。今は時代が時代だから、安全管理というのは現場の先生は対象年齢に

関係なく心配されるところだと思っただけです。幼稚園はどうですか？

**灰谷** 五十年前に、左利きのはさみがあれば面白いという話題がありました。こうやって真剣に考えている人がいたからこそ、今の時代は子ども用の左利きのはさみが出てきたのかなと思います。子どもにとって、はさみは最初に出会う大事な道具だと考えています。今は、このはさみを使っています。(はさみを渡す)

**桐山** (はさみを使って) これ、奥の方だけじゃなくて、どこでも均等に切れるんですね。灰谷 これを探すときに、いろいろな子ども用のはさみを見ました。色が派手だったり、



安全ばさみと違ってまったく切れないものになってしまったり。それを売りにしているんです。

**桐山** 切れないことが安全？

安全の概念って何ですかね。中学生でも驚くほどはさみができない子がいます。

**堀井** 昔の座談会の中で、今の時代なら言葉にすることをためらわれるだろうなと思っただけは、「けがしてだんだんよくなる」、要するにけがをしながら覚えていく、「こういうけがは、自動車事故とか水死とかとは違う」という表現。これは時代かなど。今は彫刻刀でも、けがをしないように安全装置のついたものがありますよね。

**刑部** 幼稚園ではどのようにはさみと出会わせて導入していくのですか？

**灰谷** 最初から出してはいないですね。例えばお面を作るとき、最初は子どもの描いた絵を切らせてあげると、徐々に自分で切りたくなっていく。「じゃ、気をつけて使ってね」と渡すのがはさみとの出会いの



▲灰谷知子氏

一つでしょうか。すごいことですよ。自分の描いたものが切り取られて、遊びに使うものになっていく。

**刑部** 切り取るってそういうことなのですか。面白いですね。

**桐山** 形状が変わってくるので、三次元との出会いになっていくのかも。

**灰谷** ひたすら切りたくなることもありますね。置いてある紙がどんどん切られていく。

**堀井** ジョリジョリと、あれが気持ちいいと思いますよ。

**灰谷** 破くのと違う。道具との出会いっていうのは、子どもの身体がまた一歩大きくなる大事なものだと感じます。

**桐山** 小学校一年生の図工を担当していたときに、A4の紙をりんごの皮みたいに長く切る選手権をしていた。最後に教室で「つなげちゃえ」ってゼロハンテープでつなげて。その行為が楽しくてしょうがない。

**灰谷** そういえば、はさみの持ち方って、使って使って体得していったものですよ。

**堀井** 一年生を持ったとき、はさみの技術指導は、チョキンと全部やらずに半分まで閉じて、また開くようにと言います。そうしないと連続した線にならないから。口で説明したからすぐできるってものじゃないけど、一年生くらいから必要に応じて言ったりする。

今、割と普及しているのは、はさみの指を入れる所の大きさが二つとも同じもの。穴の大きさの違うはさみは、入れる指を誘導するため。また、はさみの大きさも違いますよね。裁ちばさみはたくさん指を入れないと安定しないから。五十年くらい前は、母親が裁ちばさみを使っていたから、家庭で身近にあるのは教材用のはさみより裁ちばさみだったりしました。裁ちばさみで紙を切ろうとすると怒られていました。布が切れなくなるからと。私はそういう感じではさみと向きあっていた。

この五十年前の座談会は、そういう時代だからこそ、より丁寧に話されていたように思います。

**桐山** 裁ちばさみも普通のはさみも、大きさが違うだけと想っている子もいる。

**刑部** 職人さんの道具の使い方って、細かい道具がたくさんあって、その中から選んで使っている。ああいう環境にしてあげることが学校の中ではなかなか難しいものですか？

**桐山** できる限りの道具はそろえています。生徒は、今の自分に必要なことは相談してくれる。生徒自身が、こうしたいのにこれじゃどうにもならないと発してくるので、そこでタイミングよく出していく。そこで体得していくということはありません。

### 小学校・中学校の授業で

**刑部** 小中学校は図工や美術の授業の時間が減ってきている現状がありますが、どうでし

ようか？

**堀井** 表したいこと、作りたいもののことを主題と言いますが、できるだけ主題は子どもが選べるようにし、材料との出会いをきっかけに発想を広げるように心がけています。直近では、六年生で、むくちゅうつがの杉の板と蝶番二枚から自分が作りたいものを作るという題材に取り組みました。部品の機能とか材料の性質を手がかりに発想するわけです。個々の造形的な経験だけじゃなくて、身の回りで経験してきたこと、知っているものに基づいて主題をつかむというねらいを、限定された授業時間内でぶれないように努めてはいますが。

**桐山** 中学校も、材料ありきなんだけど、そこから主題を、というのは同じです。

**堀井** 昔は、皆で共通の材料や用具を使い、ほぼ同じ構造で、装飾に個性が反映するくらいで、結果の保障というか、子どもたちが一定以上の達成感を実感できることに配慮する

ような傾向がありました。けれど、ここ三十年くらいの大きな教育の流れでは徐々に、子どもの表したい気持ちに寄り添うという方向性が重視されるようになりました。

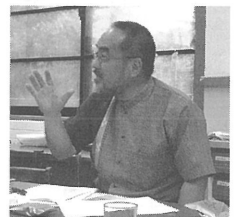
**刑部** 幼稚園、小学校、中学校で、発達の決定的に指導が違ふところはありますか？

**堀井** 私は自分の方針として、材料に関しては、絵の具と紙と土（粘土も含む）と木、それと身辺材（プラスチック容器やアルミ缶などを含む）、この五種類くらいの材料を経験させることを中心に、題材を計画しています。材料経験を通して個々の感受性や創造性に働きかけたいという思いがあります。中学年以上は、週二時間の授業時数が保障されていないので、今の子どもたちにとって身近な電子的なバーチャルなメディア以外の、学校じゃないとできないこと、学校だからできること、を図画工作という教科の限られた時間の中で、これだけは、という材料として今挙げたもの

を基本として年間授業計画を考えています。

**桐山** 学校じゃないとできないことを私も大事にしたい。特に中学校は、

義務教育最後。この先、高校で美術の授業を選ばなければ、もう一生、絵の具セットを見ることがあっても触れることはないかもしれないと思うと、責任を感じます。中学生は、絵画でいうと、すでに小学校で経験してきている子たちだから、そこに自分の考えや感受性に訴えることや経験をできるだけ盛り込める題材にしようと考えている。材料に関しては、一年生で木、二年生で石と革（レザー）、それから三年生になつて真ちゅう（金属）、最後は石こうを扱っていて、これらは絶対に経験させたいと思つている。学校でしか、まずやらないだろうというもの。別にきれいなものができるというのじゃなくて、触れあうこ



▲堀井武彦氏





とをさせたい。こういう材料で楽しんだなという思い出や経験になればと思っています。

### 子どもの思いと材料の抵抗感

**堀井** 発達段階によって、より抵抗感のあるものとか、思い通りにならないものをできるだけ経験させたいというところもある。パソコンだったらクリアすればまた作り直せるじゃないですか。世の中そんなに甘くないんだぞということも経験させたいなと思います。

**灰谷** 思い通りにならないものと聞くとドキツとするけれど、どうにかすれば思い通りになるものと格闘する経験も大事ということでしょうか。

**堀井** 思い通りにならないことも大切なのではないかと思えますね。うまくいかなかったら

また白い紙から、ゼロから、ではなくて。今の時代環境だからこそ。

かつて、子どもの思いに寄り添うことが大切だからと考えて、子どもの要求に合わせて納得するまで新しい紙を渡していたことがありました。しかし、子どもの思いが広がっていったかという点、そんなことはなかった。だからやめました。もったいないから。

**刑部** そういう話を聞いていて、幼稚園は何か違いを感じますか？

**灰谷** 違いという点、それを聞くとあらためて、思いが実現する喜びを今、幼児期にいっぱい味わうことが、どうにかしようとする意欲につながっていくのかなと思いますね。

**刑部** 「抵抗感」という話は興味深いですね。また考え続けていけたらと思います。ありがとうございました。

(二〇一七年八月九日)